俺はお嬢様の護衛係

佑紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
俺はお嬢様の護衛係

【Ｎコード】
Ｎ４３１９Ｅ

【作者名】
佑紀

【あらすじ】
遥斗はある日父親から「仕事辞めたから」「お前の就職先が見つかった」という爆弾発言を聞かされ、お嬢様の護衛という職につくことになる。

（前書き）

楽しんでもらえたら嬉しいです。

「父さん、仕事辞めたんだ」

はい？それは冗談ですか？

「面白くない事朝から言うな糞親父」
「残念ながら本当の事なんだ。なぁ、母さん」
「えぇ、そうよ」

まじかよ・・・。
っていうか何でそんなに軽いんだ？
我が家で唯一働いてる人間が仕事を辞めたというのに・・・。

「これからどうすんだよ？」
「大丈夫だ。新しく仕事先は見つけてあるからな」
「なぁんだ。だったら変な報告の仕方すんなよ」
「お前のな」
「へぇ、俺のねぇ・・・。はぁ？」

俺はまだ１７歳になったばかりの高校二年生なんだけど・・・。

「何で俺の就職先が見つかるんだよ。まだ高校生だぞ」
「見つかったというより誘われただな」
「はぁ？で、ＯＫしたのか？」
「給料が良かったからな」
「はぁ？そんだけで俺の意見を聞かずにＯＫしたのかよ」
「だって１０倍だぞ。俺が働いていた時の」

「知らん。そんなこと知らん」
「まぁ安心しろ。ある社長令嬢の護衛になるだけだ」
「俺にそんなこと出来るわけないだろ」
「そんなこと俺には関係ない。とにかく稼げ」
「お前もしかして俺が稼いだ金で暮らしていく気か？」
「だから仕事を辞めたんだろ」
「糞親父。お金もらってもお前には渡さん」
「ははは。既に俺の所に振り込まれるようにあっちと相談してある」

くそ・・・。
親父としての誇りの欠片すらない奴だ。

「母さん、何か言ってやれよ」
「頑張ってね遥斗」
「俺にじゃねぇよ」

駄目だ・・・。こいつも親父並みの馬鹿だ・・・。

「まぁ。とにかく頑張れ、俺達の為に」
「・・・・・・」

あぁ、もう何か言い返すのもめんどくさい・・・。

「そうそう言い忘れてたがこの家売るから」
「はぁ？」
「いやぁ。お金いっぱい入ってくるし母さんと世界旅行行って来る」
「俺はどうするんだよ？」
「あぁ、お前の仕事は泊り込みだから安心しろ」

何の安心をするんだよ。

「それにこの家よりも快適だぞ、良かったな」
だから何が良いんだよ。
「ははは、頑張れ。俺達の為に」
さっきも聞いたわ。
「もういい。お前達と話していると疲れる」
「そっか。それより急いで荷物まとめろよ。仕事、今日からだから」
「はぁ？急すぎるだろ」
「お前を驚かせる為に今日言ったからな」
「死ね、糞親父」
「生きろ、息子よ。そして働け、俺達の為に」
あぁ・・・。この家何なんだよ・・・。

3時間後、俺は高級車であろう車の中にいた。
勿論、俺の仕事場となる場所に向かってるわけで・・・。
これは悪夢だぁなんて叫んだりしたいが出来ない・・・。
そしてこれは紛れもない現実で・・・。
俺には溜息をつくしかできない・・・。
「もう成るように成れ」
俺は心の中でそう叫んだ。

「は？同じ市内にこんな家が存在してたのかよ・・・」
でかい。とにかく家のでかさは半端なかった。
敷地は俺の家のかるく５００倍以上はあるんじゃないか？
「こちらです」
車の運転手だって人がそう言って歩き出した。
俺はその人について歩き出した。
あぁ・・・。もう逃げられないんだ・・・。

「この方があなたが護衛する麻衣お嬢様です」
「よろしくお願いします、遥斗」
「あ、よろしくお願いします」
俺の目の前に立っている女性は今までで見た誰よりも美しかった。
生まれて初めて誰かに見惚れた。こんな事って本当にあるんだな。
「下がっていいわよ、黒沢」
「はい」
返事をすると黒沢と呼ばれた人は出ていった。
これで部屋には俺と麻衣お嬢様しかいないわけで・・・。

すげぇ緊張する・・・。こうなるんだよね。

「あの、麻衣お嬢様」
「麻衣でいい」
「え？」
「麻衣って呼んで。同い年なんだし」
「え、でも・・・」
「これは命令よ。麻衣って呼びなさい。それと敬語も禁止」
「あ、うん分かった」
「それでいい。それより何？」
「うん。何で俺なんかが麻衣の護衛する事になったの」
「私が頼んだのよ」
「え？俺たちお互いのこと知らないのに？」
「私は知ってるのよ。たまたま見かけただけだったけど」
「それだけで何で？」
「あなたが好きだからよ」
「へぇ、そっか・・・。はい？」
「あなたが好きなのよ」

麻衣は顔を真っ赤にしている。
まじなのか？これは本気で言ってるのか？
っていうか今日驚かされる発言多すぎでは？

「だからあなたを誘ったのよ、こうしたらずっと一緒にいられるから」

麻衣は顔が真っ赤だ。そして勿論、俺も真っ赤。
こんな美人にそんな事言われて平常だったら凄すぎ。

「でも、学校とかは別なわけだし、一緒にいられるって程でもない

んじゃ」
「大丈夫よ。もうあなたは転校決まってるから」
「あ、それなら大丈夫だね」
ははは。もうどんな答えが来ても驚かないのさ。
何か、俺少しずつ壊れてる・・。

「じゃあこれから頑張ってね」
「あ、うん」
一体何を頑張ればいいんだろうね？
俺の苦労はまだ始まったばかり・・・。

（後書き）

本当は連載小説のつもりだったんですけどねぇ。
いろいろと連載してるので短編にしました。
続きは読者の皆さんで想像してください。
もしかしたらいつか連載として発表するかもしれません。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4319e/

俺はお嬢様の護衛係

2010年11月14日09時43分発行